

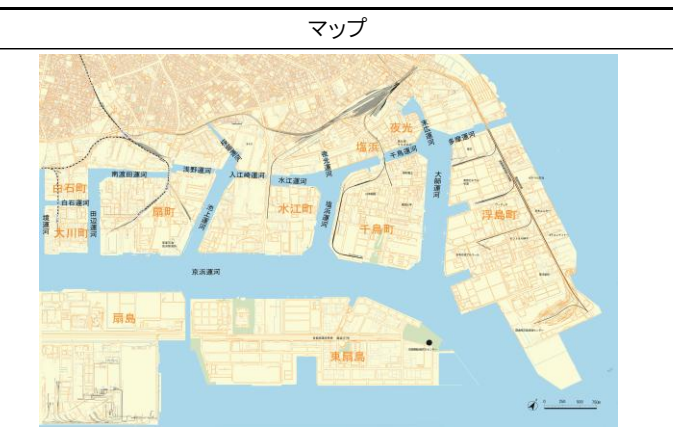
かわさき区の宝物シート

宝物No.	こうわんしせつ(うめたてち) 港湾施設(埋立地)		
28-1			
エリア	臨海部全域	シーズン	通年
	—	日時	
目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る <input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する <input type="checkbox"/> 食べる <input type="checkbox"/> その他		
宝物定義	<input checked="" type="checkbox"/> ものづくり <input type="checkbox"/> イベント・祭り <input type="checkbox"/> 味づくり <input type="checkbox"/> にぎわい <input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの <input checked="" type="checkbox"/> 港めぐり <input type="checkbox"/> 歴史的なもの <input type="checkbox"/> 人物		



写真提供：川崎市まちづくり局都市計画課/港湾局管理課

所在地	川崎区臨海部
問い合わせ	川崎市港湾局
TEL	044-200-3049
FAX	044-200-3981
E-mail	58shomu@city.kawasaki.jp
URL	http://www.city.kawasaki.jp/58/58kikaku/home/shoukai/rekishi.html (川崎市港湾局)
交通	



基礎情報

- 川崎港は、江戸中期からの新田開発に端を発し、明治以降現在に至るまでの本格的な埋立事業によって造成されてきた港である。川崎市が管理する公共ふ頭と、企業が所有する専用ふ頭からなり、様々な都市・港湾施設が立地している。
- 埋立地には、東扇島(シビルポートアイランド)にコンテナバースを含む25の公共係船施設がつけられ、川崎マリエン(H4)や東京湾岸道路(H6)・東京湾アクアライン(H9)など様々な周辺施設が整備されているほか、東扇島西公園(H16)や東扇島東公園(H20)など市民の憩いの場がつけられている。

由来・エピソード

- 江戸時代中期から池上幸豊らによる新田開発が進められ、明治の中頃までには池上、田辺、小島、夜光等の各新田が造成された。その後、欧米諸国巡遊を体験し、工業の必要性を痛感した浅野総一郎が、明治41年(1908)、洪澤栄一、安田善次郎らと「鶴見埋立組合」を結成し、明治時代末から昭和時代前期にかけて、浅野町、大川町、南渡田町、扇町などの海面を埋め立てた。土地造成事業が進められると、湾岸を利用する大企業が進出し、それぞれ専用埠頭を設け、原材料を輸移入し製品を輸移出すという総合的な港湾機能が確立、京浜工場地帯の中核が形成されていった。
- 神奈川県も昭和12年(1937)以降、現在の水江町、夜光町の一部の造成を行ったが、第二次大戦後の戦災復興が優先され、昭和20年(1945)に事業は中止された。戦後の食糧事情が深刻化してくると、昭和22年(1947)には国が食料や肥料の輸入を企画。その荷揚場を川崎市千鳥町に建設した。川崎港における公共ふ頭の始まりであった。昭和25年(1950)の港湾法制定により、川崎市が港湾開発、港湾運営に関する一切の業務を行う港湾管理者となった。特定重要港湾に指定された後には、昭和31年(1956)の港湾審議会の決定を経て、浮島町と千鳥町が造成され、石油コンビナートをはじめ様々な工場が新たに立地を開始し、また防波堤の延長や川崎航路の新設など港としての形態が整えられてきた。
- 現在も埋立事業は進行し、浮島では一般廃棄物、建設発生土、浚渫土砂等の廃棄物を利用した埋め立てが行われ、「浮島1期計画」の完成後、平成7年度から「浮島2期計画」が現在も継続されている。

補足・その他

- 明治以降の埋め立て総面積は20.52km²にも及び、川崎区の面積40.25km²(平成22年現在)の半分を超えるに至っている。
- 港湾施設(埋立地)へのアクセスは、埋め立て地を東西に走る首都高湾岸線と、浮島と千鳥町の北からの入口となる浮島橋や千鳥橋の他に、千鳥町と東扇島を海底で結ぶ全長約1kmの川崎海海底トンネルがある。この海底トンネルには自動車専用道路と歩行者専用の通路があり、歩行者専用通路の入口はちどり公園の中の管理棟にある。自転車の走行は禁止されているため、押して通行する必要がある。

関連シート

- (17-4)浮島つり園
- (19-1)「川崎漁業ゆかりの地」碑
- (19-2)川崎マリエン
- (19-3)川崎の海苔づくり資料室
- (19-6)東扇島西公園
- (28-2)川崎港・運河
- (32-3)池上幸豊